

## 金融犯罪の傾向と被害額

4

## 犯罪インフラの実態と犯罪収益の流れ

6

## 犯罪者を分析 なぜ犯罪者は生まれるのか？

10

## 被害者を分析 だまされている人のサインとは？

12

## 犯罪者が仕掛ける

## 心理テクニックと現場の説得術

14

## 次なる犯罪は？

16



要警戒！  
お客様を狙う

## 金融犯罪事例 14選

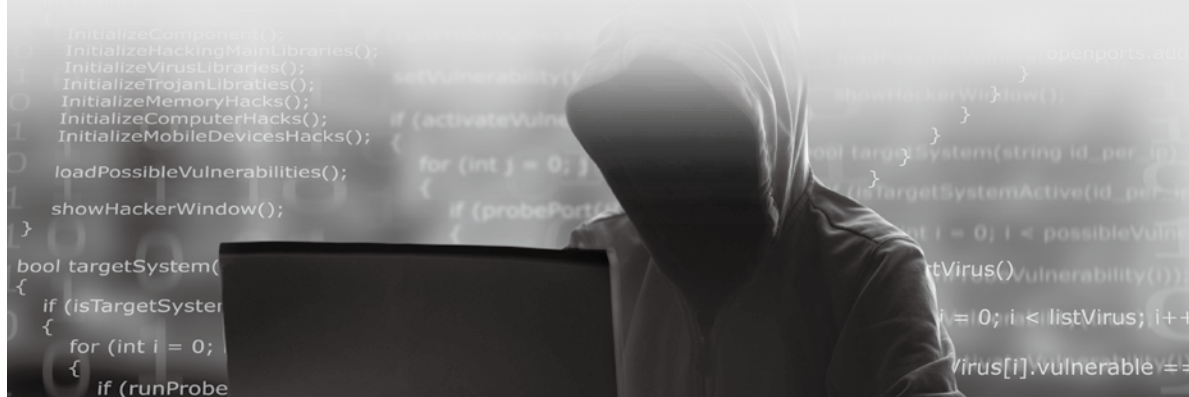
Case 1

偽造本人確認書類による口座開設

20

## 利用者の安全な取引に活かす 金融犯罪の手口と対策

|         |                |    |
|---------|----------------|----|
| Case 14 | 証券口座の乗っ取り      | 46 |
| Case 13 | マルウェア感染による不正送金 | 44 |
| Case 12 | 架空料金請求詐欺       | 42 |
| Case 11 | 還付金詐欺          | 40 |
| Case 10 | ATMでのスキミング犯罪   | 38 |
| Case 9  | 金融機関職員をかたる詐欺   | 36 |
| Case 8  | 警察官をかたる詐欺      | 34 |
| Case 7  | IB口座の不正開設      | 32 |
| Case 6  | SNS型 ロマンズ詐欺    | 30 |
| Case 5  | SNS型 投資詐欺      | 28 |
| Case 4  | ボイスフィッシング      | 26 |
| Case 3  | フィッシング詐欺       | 24 |
| Case 2  | 法人口座の不正利用      | 22 |



2024年の特殊詐欺被害額は過去最多に。  
急増する金融犯罪に、国民の「体感治安」も悪化

# 金融犯罪の 傾向と被害額

国際的な広がりを見せる巧妙な金融犯罪。その手口は刻々と進化し、  
匿名性と高度な組織力が「闇のエコシステム」を支えている。

金融犯罪被害が急増しており、社会問題化している。日本においては、SNSを介した投資詐欺やロマンス詐欺、特殊詐欺、フィッシング詐欺、IB（インターネットバンキング）の不正送金、クレジットカードの不正利用などが頻発しているが、こうした以前から発生していた類型に加え、例えば証券口座乗っ取りは、株価の変動を狙って他人の証券口座を悪用したもので、過去に例がないサイバー攻撃を絡めた新たな手口であり、金融犯罪の類型は多様化している。

金融犯罪は、暗号資産（仮想通貨）やペーパーカンパニー、ダークウェブ（一般的な検索エンジンでは表示されないウェブサイト）や闇サイトといった犯罪を助長するツールや、法人口座のモニタリング態勢などサイビスや規制の「抜け穴」となる犯罪インフラの高度化・洗練化の動向と密接な関係がある。

最近では、①SNSなどデジタルツールの活用、②サイバー

攻撃の高度化、③トリックウ（匿名・流動型犯罪グループ。SNSを通じて募集する闇バイトなど緩やかな結びつきで離合集散を繰り返す集団）の関与、④AI（人工知能）／生成AIの活用、⑤RaaS（ランサムウェア※をサービスとして提供するビジネスモデル）に代表される犯罪ツールのビジネス化・大衆化などによって、犯罪の匿名化・一般化が進んでいる。さらに、攻撃者の多数化・多様化に伴い、日々、新たな犯行ツールや手口を用いた金融犯罪が生み出されているのが現状である。

※身代金の要求を目的とした悪意あるプログラム

## ボーダーレス化する 金融犯罪

最近では、海外でも詐欺などの金融犯罪被害が拡大しており、国際会議を通じて被害状況や対策の共有がなされている。日本で発生した事案も、海外を巻き

込んだものが多く、国際的な協力が求められるほか、その対策は日本のみならず、海外の犯罪の撲滅にも必要となっている。

FATF（金融活動作業部会）が、レポートで「単一の金融機関は、トランザクション（取引）の一部しか把握しておらず、多くの場合、大きくて複雑なパズルの小さなピースしか見ていません。犯罪者は、法域内または法域全体で複数の金融機関を利用して、この情報のギャップを悪用し、違法な資金の流れを重ねます」と指摘しているとおり、金融犯罪の越境化、犯罪組織（犯罪グループを含む）の国際化が進むなか、金融機関同士の国際的な連携、リアルのみならずオンライン空間における切れ目のない監視網の構築などが求められている。

## 被害件数と被害額の 現状

警察庁が2025年2月に公

# 偽造本人確認書類による 口座開設

運転免許証等の偽造精度が向上し、本人確認をすり抜けている。

いまや偽造本人確認書類は「犯罪インフラ」となり、金融犯罪の基盤として悪用されている。

## 要注意！

いま、こんな事例が  
起きている

クレジットカードの新規申込を審査している担当者が、本人確認書類として提出された運転免許証のコピーを確認していたところ、印字がやや異なることに気づいた。

この件については審査NGとなったが、最近、中国人など海外の犯罪グループが、組織的に日本人の運転免許証を偽造している実態が明らかになっていることから、審査部門内で字体の特徴を共有。すると、1カ月で数十件の同

様の手口と思われる申込みを受理していた。

本部では、組織的に狙われている可能性を察知したため、過去半年分の審査についてもランダムに精査したところ、同様の手口と思われる偽造運転免許証を数十件確認した。

時を同じくして、過去の審査をすり抜けて発行したクレジットカードが、犯罪に悪用されるケースも複数出始めたことで、同社は警察に通報した。

性は失われていると心得る必要も出てきた。

## 犯罪の実態

偽造運転免許証等は、様々な不正契約を可能にする「犯罪インフラ」になっており、多くの犯罪に悪用されている。最近では、生成AIにより偽造精度が高くなっており、目視で見極めることが困難である。

## 犯罪者を知る

偽造運転免許証を使ってクレジットカードを不正に契約し、スマホを購入・転売して約9500万円の利益を得たとして、トクリュウとみられる男12人が詐欺容疑等で摘発された事

こうした状況を受け、2024年6月、犯罪対策関係会議で「国民を詐欺から守るための総合対策」が取りまとめられ、口座開設やスマホ契約時の本人確認について、顔写真のない本人確認書類を送る方式を廃止する方針が示された（なお、2025年6月には改訂版「国民を詐欺から守るための総合対策2・0」が決定した）。また、非対面での本人確認は、原則「公的個人認証」（マイナンバーカードや運転免許証のICチップ情報を読み取り、照会機関に確認する方法）に一本化する方針を固めた。デジタル庁は「デジタル認証アプリ」を開発し、官民での活用が進められている。

## 芳賀 恒人 Haga Tsunehito

株式会社エス・ピー・ネットワーク 取締役副社長 首席研究員

東京大学経済学部卒業。

大手損害保険会社を経て、株式会社エス・ピー・ネットワーク入社。

企業のリスク抽出・分析ならびにビジネスコンプライアンスを中心とする内部統制構築を専門分野とするリスクアナリストとして、数多くの企業危機管理に関する事例を手がけるほか、大学での講義など幅広く活躍。とりわけ、企業の反社会的勢力排除の内部統制システムの構築・運用支援、排除計画の策定・排除実務支援、犯罪対策閣僚会議下の「暴力団取締り等総合対策ワーキングチーム」での報告、反社会的勢力排除に向けた企業の取組みに関する各種コラムの執筆・講演など、反社会的勢力排除、組織犯罪対策の分野を中心に数多くの実績を有する。また、最近はコンプライアンス・リスク管理論やHR（ヒューマンリソース）リスクマネジメント分野、情報番組出演など活躍の幅を広げている。

主な著作に『暴力団排除条例ガイドブック』（共著、レクシスネクシス・ジャパン）、『マネー・ローンダリング 反社会的勢力対策ガイドブック』（共著、第一法規）、『フローチャートでわかる 反社会的勢力排除の「超」実践ガイドブック』（第一法規）、通信講座『マネロンや反社対策に必須！ 法人の実態確認に強くなる講座』（近代セールス社）などがある。その他、雑誌連載・寄稿多数。



2025 年 11 月増刊号（通巻 669 号）

### 利用者の安全な取引に活かす 金融犯罪の手口と対策

2025 年 10 月 20 日 印刷

2025 年 11 月 1 日 第1刷発行

定価 1,210 円 本体 1,100 円

年間購読料 7,700 円 本体 7,000 円

（年1回増刊号および送料含む）

著 者 芳賀恒人

発行所 株式会社経済法令研究会

編集人 松倉由香 栗林貴子 辻角果月

発行人 高橋春久

印刷・製本 あづま堂印刷株式会社

デザイン・DTP 讃岐久子（株式会社クリエイティブ・コロン）

本 社 〒162-8421 東京都新宿区市谷本村町 3-21

電 話 03-3267-4811（代表） 03-3267-4823（制作直通） FAX 03-3267-4955

営業所 東京・大阪・名古屋・福岡

\*禁無断転載 © / 落丁・乱丁本はお取り替えいたします。

#### 経済法令グループホームページ会員登録のお勧め

会員登録（無料）により、2,200 円（税込）以上のご購入で商品の送料が無料となります。次回から購入（申込）手続きが簡易化されるほか、購入・申込履歴のご確認、管理に便利なマイページ機能がお使いいただけます。

経済法令研究会 <https://www.khk.co.jp/>